

# 天狗さまの幻を追って

天狗高原コース 高知県津野町

大高竜亮

四国山地のまっただなか。天狗さまが居たとしたらこんな場所だったに違いない。

天狗高原コース  
高知県 No.6 JOA 公認 No.470  
10 km 8 ポスト



## 忘れ去られた名コース

本誌 2002 年 6 月号で閉鎖中の広島県「比婆西城」コースを紹介したことがあります。今回とり上げる「天狗高原」コースも、そういった「すでに忘れ去られた」名コースです。

高知県のコースは正式に廃止申請がなされたわけではないものの、実質的には大半が廃止状態になっています。

県ナンバー 6 のこのコースも同様に、全 8 ポストのうち 3 箇所はすでに行方が知りません。しかし、「四国のみち（四国自然歩道）」に指定されている愛媛県境の尾根縦走ルートと等高線に沿って引き返す「横道コース」の環境の素晴らしさは、パーマネントコースの管理状況云々を吹き飛ばしてしまうほど。トレッキングを楽しみつつ、かつてのポストの遺構に出会える旅といった気分で行くととても楽しめます。

## 四国カルストの観光地

高知県中西部に位置する高岡郡津野町（平成 17 年 2 月 1 日に葉山村と東津野村が合併して誕生）最北部、愛媛県との境一帯に広がるのが天狗高原です。

標高 1,400m のそこは四国カルストの最東端にもあたります。

スタート地点は国民宿舎「高原ふれあいの宿天狗荘」とはいえ、すでにパーマネントコースに関するものは何もなく、地図の扱いもありません。交通機関はとて不便です。JR 土讃線「須崎」駅からバスに乗り、「新田」というところでの乗り換えも含めて 1 時間 50 分もかかります。しかも 1 日 2 往復のみ。この日の私は宿泊地の岡山を早朝に出発。坂出から「特急しまんと」に乗って高知駅に向かい、ここからレンタカーを利用しました。高知駅からは「須崎東インター」まで高速を使っても 1 時間半から 2 時間は優にかかります。

天狗荘が近づくにつれ、「高いところまで登ってきたなあ」という感想が思わず漏れてしまう景色が広がってきます。そして、岡山出発から 5 時間後の 10 時半ようやく到着。かなりの僻地のため、訪れる人も少ないのかと思いきや、駐車場には多くの車が駐車しています。観光バスもやってくるほどのメジャーな観光地のようです。



四国カルストの天狗の森

## 雄大な縦走路をゆく

天狗荘の周囲をぐるりと一巡りして案内板のないことを確認し、10 時 51 分にスタートです。駐車場からキャンプ場に沿って続く遊歩道に入ります。第 6 ポストまでは尾根筋の縦走のため、すぐに上りに差し掛かります。アスレチックの入口にある分岐付近が第 1 ポストのはずなのですが、周辺を入念に探しても見つけることができません。早速出鼻をくじかれますが、気を取り直して第 2 ポストへ向かいます。

この第 2 ポストのある「天狗の森（標高 1485m）」までが四国カルストとされています。快適な遊歩道をたどってぐいぐい高度を稼いでいくと、樹木もま

ばらなカルストらしい景色が開けてきます。パーマネントコースでこれだけ雄大な山岳コースも珍しく、テンションも鰻上り。そして、遂にこの日最初のポストに遭遇します。山頂の道標を横目にさらに進むと、赤錆に全身覆われたポストが毅然と直立しています。設置が 77 年 9 月ですから、丸 30 年間風雨に曝されながらもこうして立っていること自体が奇跡的。すでに塗装は消え失せ、記号の確認は不能です。30 年前は鮮明な紅白の色がさぞ映えただろうと思いを馳せ、第 3 ポストに向けて下り坂を歩き始めます。

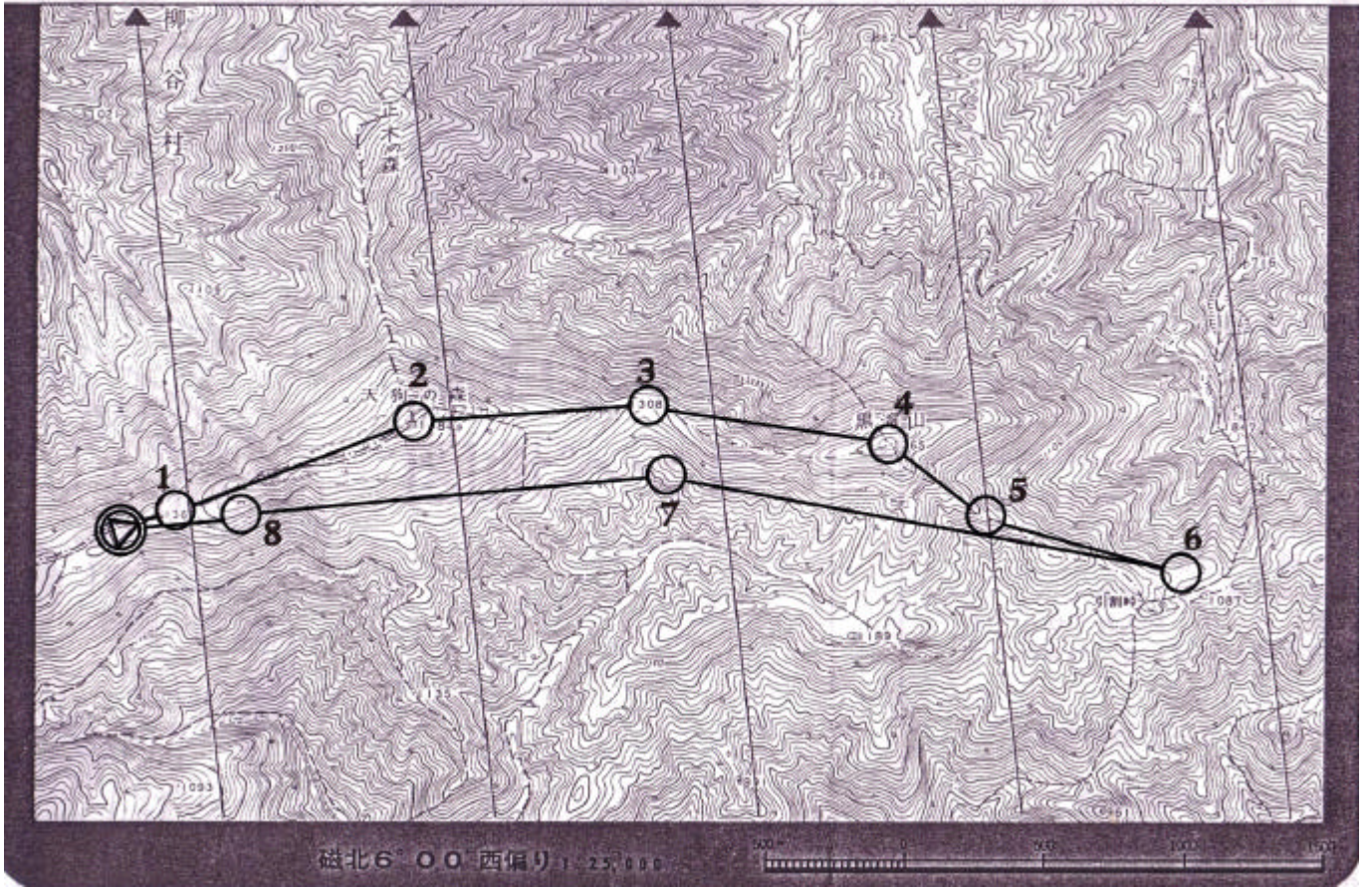
地図には尾根から外れて南へ下る道しか記載がありません。しかし次のポストは尾根をそのまま下った先にある鞍部に設置されています。第 2 ポストから続く遊歩道は尾根からやや南寄りに下り始めます。嫌な予感を抱きつつも他にルートはなく、導かれるままに歩くことに。結局心配は杞憂に終わり、更なる道との分岐を認識することもなく、尾根に復帰します。鞍部に下りきるまでは随分と長く感じるものの、ポスト位置まで来れば、道端にすくと立つ姿を容易に認めることができるでしょう。このポストはセピア色に染まりつつも、記号の判読は今も可能です。



鞍部にある第 3 ポスト

次に目指すは「黒滝山」。標高差は 60 m ほどですが、その前にもう 1 つのピークを超えなければなりません。一旦登り詰め、目指す黒滝山を見据えて鞍部へ下ります。第 2 ポストの「天狗の森」とは異なり、黒滝山の山頂は道の途中といった様相です。わずかに下りかけたところに第 4 ポストがあります。

第 5 ポストへは南東方面へ下って行きたいところですが、ルートは真東へ向かうため、このまま進んでいいもの



かと一瞬躊躇してしまいます。半信半疑で下ると、気が変わったかのように方向転換し、目指す方角へ向かい始めて一安心。落ち葉が敷き詰められ、ふかふかな歩道を進んでいきます。そして、復路となる「横道コース」との分岐でポストを確認。ここから第6ポストまでは丸々出戻りとなります。

コース最東端にあたるこの第6ポストはちょっとしたビュースポットが続きます。一見行き止まりのように見える岩石地を抜けると、ほどなくして「ヒメシャラ並木」に差し掛かります。皮を剥いだかのような鮮やかな茶色の幹をもつ100本ほどのヒメシャラが林立するその区間は独特の雰囲気。日の光を浴びると黄金色に輝くとも言われるほど鮮やかな幹は、皮をつけたまま床柱として使われたり、強くやわらかな素材を活かして杵に加工されたりするそうです。

快適なルートをさらに下ると、国の天然記念物にも指定されている「大引割・小引割」に到着。目の前にあるのが「大引割」で、長さ80m、幅3~8m、深さ30mという大亀裂が口を開け

ています。柵もなく、覗き込むと吸い込まれてしまいそうでスリル満点。やや小規模の「小引割」は小道をさらに進んだ先にあります。ポストは分岐の脇に隠れるように潜んでいました。



断崖絶壁の大引割

ここからは出戻りで一旦第5ポストへ。途中、2組の夫婦とすれ違い、同じように引割までもうすぐかと尋ねられます。第5ポストからは稜線をたどってきた往路とは異なり、等高線に沿って進む「横道ルート」に入ります。大きな特徴物もないため、第7ポストまでは第3ポストのあった鞍部を目標に設定。右手を見上げながら進みます。この上なく快適な遊歩道を楽しみ地図

上のポスト位置に到着。しかし、このポストはすでに撤去されたのが確認することができません。

そして最終ポスト。結果的にはここも見当たりません。横道ルートを引き続き西に向かいます。途中から木のチップの敷き詰められたセラピーロードに入り、キャンプ場まで戻ってきます。第8ポストと再度第1ポストを探し、欠損していることを納得して天狗荘に帰り着きました。

トータルの所要は4時間16分。雲上の世界を堪能した印象深い時間となりました。

利用者の少ない現状では、リニューアルの期待も決して大きくはありません。しかしコース状態が悪くとも、歩く楽しみがそれを十二分に補ってくれるでしょう。屈指の健脚向きコースです。

(2007年11月24日 踏破)  
(大高竜亮)